

2026
2・3
No.451

埼玉経協

SAITAMA Employers' Association

ニュース

[CONTENTS]

- 02 令和8年「新年会員懇談会」
- 02 挨拶・特別講演の部、懇親会の部
- 04 第24回「渋沢栄一賞」表彰式
- 05 **第6回トップセミナー** 「株平成エンタープライズの取組み」
- 05 **第8回トップセミナー** 「プロフェッショナル仕事の流儀」
- 06 **第9回トップセミナー** 「問題社員対応の実務と戦略」
- 06 **第10回トップセミナー** 「スポーツビジネスに学ぶ」
- 07 **さいたま経営らぼ** ～経営者クロストーク～
- 07 **第11回トップセミナー** 「赤城乳業のブランド戦略」
- 08 **さいたま経営らぼ** ～最終回「提案と対話」～
- 09 **第3回SDGs委員会**
「発達障害者雇用に向けた企業支援セミナー」
- 09 **第4回SDGs委員会**
「特別支援教育の現場視察と意見交換会 ～県立岩槻はるかぜ特別支援学校～」
- 10 **第5回SDGs委員会**
「障がい者雇用推進のための企業視察 ～アイルコーポレーション(株)～」
- 10 **産業教育委員会** 「埼玉県立草加東高校視察」
- 11 第2回会員企業等異業種交流会
- 11 **令和7年度地区協議会**
「(株)ダイヤモンドマーク本社工場、SAITEC 視察」
- 12 埼玉大学特別公開講座
- 12 ものづくり大学特別公開講座
- 13 埼玉県からのお知らせ
- 14 埼玉大学研究者との出会いの広場
- 14 「ものづくり大学」へようこそ
- 16 ワンポイント労働法
- 16 告知版、会員の動き



一般社団法人 埼玉県経営者協会

<https://www.saitamakeikyo.or.jp>

新年会員懇談会

》令和8年新年会員懇談会

新年会員懇談会を開催

日時 1月8日(木) **場所** パレスホテル大宮

参加者 226名

開会挨拶をする
橋元 健 会長



令和8年の新年会員懇談会はパレスホテル大宮にて1月8日に開催された。

特別講演では、株式会社宗家花火鍵屋第15代当主の天野安喜子氏が「花火師×柔道審判員という異色キャリアから見える経営のヒント」と題する講演を行った。(講演概要は後述)。

懇親会では来賓を含めた多数の参加者により和やかに新年の懇親を深めた。

【第1部 挨拶・特別講演の部】

開会挨拶 会長 橋元 健

(キヤノン電子(株)代表取締役社長)

来賓祝辞 財務省関東財務局長 後藤 健二 様

厚生労働省埼玉労働局長 片淵 仁文 様

連合埼玉会長 今井 信博 様

事務局報告 専務理事 廣澤 健一

特別講演 演題 「花火師×柔道審判員という異色キャリアから見える経営のヒント」

講師 (株)宗家花火鍵屋

第15代当主

天野 安喜子 氏

【第2部 懇親会の部】

開宴挨拶 副会長 石井 剛史 様

(東日本旅客鉄道(株)執行役員 大宮支社長)

来賓祝辞 埼玉県知事 大野 元裕 様

さいたま市長 清水 勇人 様

乾杯 埼玉大学学長 坂井 貴文 様

閉宴挨拶 副会長 坂井 正善 様

(日本信号(株)専務執行役員)

》令和8年新年会員懇談会 特別講演

花火師×柔道審判員という異色キャリアから見える経営のヒント

講師 株式会社宗家花火鍵屋 第15代当主 天野 安喜子 氏

講演する
天野 安喜子 氏



はじめに

本講演では、360年続く江戸花火「鍵屋」の第15代目当主であり、国際柔道連盟審判員資格を取得し、北京・東京・パリの3大会にて競技審判員として活躍した天野安喜子氏が講演を行った。講演会は、花火の「かぎや(鍵屋)！」の掛け声とともに開演し、極限の状況で培った「判断力」と「伝統の繋ぎ方」を、貴重な映像やスライドを交えて語った。

1. 「一瞬」を見極める決断力と危機管理

「花火の打ち上げ」と「柔道の審判」について、両者に共通するのは、数秒で安全や勝敗を判断する「やり直しのきかない緊張感」である。柔道審判員として数多の畳の上で磨いた「瞬時の決断力」は、経営における緊急時の対応や、時代の変化を見極める力へと直結している。次の一手を打つ精神こそが、不測の事態でも動じない経営の根幹である。

2. 職人技の言語化と客観的な視点

経験や勘に頼りがちな花火の世界に、天野氏は「芸術学博士」としての理論や、柔道審判員としての「客観的な視点」を持ち込んだ。伝統を精神論で終わらせず、「技術を数値化・理論化」することで、誰にでも伝わる品質へ繋げた。これは、硬直化しやすい組織において、いかに高い水準を維持し継承していくかという、経営に対する重要なヒントとなる。

3. 信頼を繋ぐ「誠実さ」という哲学

男性優位の社会で道を切り拓いてきた背景には、性別を問わず「実力(資格)」と「きめ細やかな感性」で勝負する潔さがある。「一つ喜んでいただくために十の努力を」という職人氣質。データを越えた「人の心に寄り添う温かみ」が、360年「鍵屋」の暖簾を守り続けてきた最強のブランド戦略である。

》令和8年新年会員懇談会 写真集

第1部 挨拶・講演の部



開会挨拶
橋元 健 会長



特別講演
天野 安喜子 氏



第2部 懇親会の部



来賓祝辞 大野 元裕 埼玉県知事



来賓祝辞 清水 勇人 さいたま市長



乾杯 坂井 貴文 埼玉大学学長



開宴挨拶 石井 剛史 副会長



閉宴挨拶 坂井 正善 副会長



渋沢栄一賞表彰式

》第24回(令和7年度) 渋沢栄一賞表彰式

東英弥氏、井内英夫氏、加藤勇氏の 3氏が受賞

日時 2月10日(火) 場所 大宮ソニックシティ国際会議室

表彰式の様子



第24回(令和7年度)の渋沢栄一賞は、学校法人先端教育機構(東京都港区)理事長 東英弥氏、アズワン株式会社(大阪府大阪市)前会長 井内英夫氏、和光産業株式会社(島根県松江市)代表取締役 加藤勇氏の3氏が受賞し、表彰式が行われた。

「渋沢栄一賞」は、多くの企業の設立や育成に携わる一方で、福祉や教育などの社会事業にも尽力し、近代日本の礎を築いた渋沢栄一の生き方や功績を全国に発信するとともに、今日の企業家のあるべき姿を示すため、渋沢栄一の精神を今に受け継ぐ全国の企業経営者に贈られるもの。受賞者および受賞理由は次のとおり。

(受賞者は50音順)

❖東英弥氏(学校法人先端教育機構 理事長)

◇会社概要◇

教育、学術

2011年創業 従業員数80人

◇優れた経営◇

- ・自身が15社を起業した経験から、「企業理念」や「構想力」の重要性を認識し、私財を投じて、事業構想大学院大学及び社会構想大学院大学の2大学を創設
- ・開学14年で、東京・大阪・名古屋・福岡・仙台に拠点をもち、3,000名以上の修了生を輩出。産学連携のビジネスモデルの構築や地域資源の活用等、全国各地で社会課題解決や新産業創出に貢献
- ・自身が経営する企業の売却により得られた収益の大部分を学校法人に寄付し、教育施設の整備や人材育成等に活用

◇社会への貢献◇

- ・給付型奨学金制度を備えた公益財団法人先端教育振興機構を設立し、社会人のリカレント教育を支援
- ・一般財団法人東文化芸術財団を設立し、全国各地で無償のクラシックコンサートを主催しており、文化芸術振興に貢献



❖井内英夫氏(アズワン株式会社 前会長)

◇会社概要◇

計量・理化学・光学機械機器等卸売、医療用品卸売業

1933年創業 従業員数762人

◇優れた経営◇

- ・理化学機器・用品卸売業として、国内12営業所、5物流センター、6関係会社を擁する
- ・28歳で社長就任後、カタログとEC(インターネット販売)を活用した豊富な品揃えと独自のビジネスモデルを構築
- ・データドリブン経営と積極的なIT投資により、当日出荷率95%を実現し競争力を高め社業隆盛の礎を築いた

◇社会への貢献◇

- ・公益財団法人井内財団を設立し、ミャンマー留学生に対する継続的な支援
- ・災害支援、教育振興、国際人材育成など多方面にわたる寄付
- ・文化貢献活動としてピカソや葛飾北斎などの美術品を美術館に寄託



❖加藤勇氏(和光産業株式会社 代表取締役)

◇会社概要◇

コンクリート製品製造業、その他の建設材料卸売業

1973年創業 従業員数85人

◇優れた経営◇

- ・1973年設立のコンクリート製品メーカーで、インフラ整備に貢献
- ・創業以来50年以上にわたり障がい者雇用を推進し、障がいの有無に関わらず、共に働ける職場づくりを実践
- ・IT活用と機械化で完全週休二日制を導入。若年者の雇用管理が優良である中小企業に与えられる「ユースエール認定」を取得

◇社会への貢献◇

- ・20年間にわたり入場無料の文化講演会を開催するほか、環境や人体に優しい固形マーカ―を地元保育園に毎年寄贈するなど、地域貢献に取り組んでいる
- ・障がい者の「働く場」「暮らす場」を支える包括的グループ経営を展開。こうした障がい者支援に関する長年の功績により藍綬褒章を受章



》第6回トップセミナー

バス会社の既存概念を超えていく

～(株)平成エンタープライズの取組みとは～

日時 12月15日(月) **場所** 大宮ソニックシティ 906

参加者 計21名 **講師** (株)平成エンタープライズ 代表取締役 田倉 貴弥 氏



講演する田倉 貴弥 氏

【創業期から現在までの歩み】

幼少期から車好きで、22歳でバス事業を開始した。当初は免許や規制の壁に苦勞し、許可取得まで2年を要した。また、大手バス会社との競争や業界の慣習に悩み、独自路線を模索する。VIP仕様のバスや女性専用ラウンジの設置など差別化戦略を推進。

規制緩和や働き方改革で長距離ツアーが困難になる中、農業や飲食事業にも着手。観光地まで赴くのではなく、近くに観光地を作り出す戦略で多くの顧客を引き込んでいる。

【社員との関係改善と福利厚生】

コロナ前後で、社員の離職が増加する傾向にあった。原因は人間関係やパワハラ問題。研修を強化して改善を図るも、大規模研修では効果が薄いと感じ、少人数制で社長自ら食事を共にする研修に変更した。

さらに福利厚生を充実させ、自社農場でとれた農

産物を社員に配布したり、社員旅行も積極的に企画したりと、社員と家族が楽しめる取り組みを実施している。最近では、体が動く限りずっと働くと言ってくれる社員や、入社希望の人を紹介してくれる社員もおり、社内全体で協力的になっていると感じる。

【将来の展望】

運送事業は、近い将来自動運転が当たり前になり、IT企業が交通を支配する日がやってくる。今後もバス会社として生きていくのは厳しいと感じており、そんな中でも絶対になくならないであろう「食」に目を付けて、バス事業と農業を融合した新しいビジネスモデルの構築を進めている。埼玉県は都心から近く、プチ観光としてのポテンシャルは持っている。ぜひ、皆様の力を借りて埼玉県に魅力を増やしていきたい。

》第8回トップセミナー

プロフェッショナル仕事の流儀

～プロフェッショナル達の仕事論～

日時 1月16日(金) **場所** 大宮ソニックシティ 604 / オンライン (ハイブリット)

参加者 31名 **講師** NHKメディア総局 プロジェクトセンター チーフ・プロデューサー 横山 友彦 氏



講演の様子

■プロフェッショナル達を貫く3つの視点

1. リーダーの仕事論

圧倒的な成果を出すリーダーたちに共通するのは、仕事を単なる「稼ぐ手段」ではなく、人生における「自らの宿命」と捉える覚悟と執念である。その象徴として、心臓外科医の天野篤氏のエピソードが深く掘り下げられた。「あなたにとってプロフェッショナルとは」という問いに対し、天野氏は「仕事とは宿命であり、後悔を払拭するためのもの。」と述べている。自分に課せられた運命を「宿命」として受け入れ、現場に立ち続ける。その圧倒的な当事者意識こそが、多くの命を救い、周囲を牽引するリーダーの本質である。

2. オンリーワンへの道

独自の地位を築いた人々は、最初から才能があったわけではない。「他者から求められること」に徹底的に応える過程で、独自のスタイルを確立している。そ

の象徴として、靴修理職人の村上壘氏のエピソードが深く掘り下げられた。職人のプライドに固執せず、顧客の要望を最優先にすることで唯一無二の技術を磨き上げた点にフォーカスした。

3. 社会の底辺を支える仕事

ゴミ収集員や校正者など、我々の日常からは見えにくい仕事に従事する人々についても思いを語った。表舞台には出ずとも、積極的な受け身と自らの役割に深い誇り(矜持)を持つ姿を紹介した。

■プロフェッショナル達の共通点

数多くのプロフェッショナルを取材してきた中で見えてきた共通点、それは「孤独を貫く勇気」である。たとえ周囲から「異端児」と疎まれたとしても、自らが信じる道を妥協せずに進む姿勢こそが、新しい価値を生み出す源泉となっている。

セミナー開催結果

》第9回トップセミナー

問題社員対応の実務と戦略

日時 2月13日(金) 場所 大宮ソニックシティ 905

参加者 計60名 講師 高井・岡芹法律事務所 代表弁護士 岡芹 健夫氏



講演する
岡芹 健夫氏

問題社員対応において、企業が解雇・懲戒・配置転換などを行う際、裁判で勝つか負けるかは「証拠の有無」でほぼ決まる。特に重要なのは、5W1Hで記録を残すこと。メールやチャットなど、形式は問わない。

【能力不足社員】

指導・改善の努力を行い、また合理的な範囲で配置転換などの解雇回避措置を検討する。それでも改善されなかったことを客観的証拠により立証できるようにしておくことが必要。改善の機会を与えた事実がないと、企業が負ける可能性が高い。

【健康不安】

特にメンタルヘルスの対応は慎重を期する必要がある。診断書は強い効力を持つが、完全ではない。診断書に疑義がある場合は、産業医の診断を受けさせるか、

主治医と面談して診断に至る事情等を確認すること。

【素行不良】

社員からパワハラ申告があった場合は、企業はパワハラの有無や内容に関する調査及び調査結果の報告、パワハラ行為者に対する処分、再発予防などの義務が発生する。適切な措置を講じなかった場合、企業側に損害賠償が生じる恐れがある。

【勤怠不良】

無断遅刻・早退・欠勤や、長時間離席、SNSやインターネットを閲覧している等の実質サボリ等、裁判でも最もトラブルが多い。対応のポイントとしては、黙認せずに都度注意すること、そして口頭注意から書面、指導書、戒告と段階を踏むこと。

》第10回トップセミナー

スポーツビジネスに学ぶ 新規事業を成功に導く7要件

日時 2月24日(火) 場所 大宮ソニックシティ 601

参加者 計21名 講師 株式会社 ZERO-ONE 代表取締役 葦原 一正氏



講演する葦原 一正氏

【人材戦略】

事業の成功は採用が9割であると考えている。スキルセットよりもマインドセットを優先し、基本的な考えが一致していることでチームとしての一体感を醸成する。カネ集めよりもヒト集め。有能なヒトが集まれば、いつの間にかカネが生まれる。

【マーケティング戦略】

ターゲットを大きくとりすぎないことが大事。例えばバスケットボールで言えば、個人観戦ではなく集団観戦型、家にいるよりもお出かけ好き、TVではなくスマホで情報収集、情報を受け取るだけでなく発信やシェアも積極的といったように、取り込みたい層の属性を絞り込んでいく。そのためには顧客データが戦略のカギになる。

【ブランド戦略】

ブランディングは幅広くまんべんなく受けるものを意識しがちだが、メリハリが大事。B.LEAGUEの場合とはにかく「革新的」と「格好いい」だけを突き詰めて、ほかはいいと割り切った。また、80点を10回出すのではなく、1回で120点を取ることにこだわっている。よく「顧客満足度」というワードが使われるが、「満足」するだけではリピーターにはならない。その先の「感動」を与えるくらいの気持ちでないと、次はない。

【リーダーシップ】

良い戦略が描けても、リーダーシップがなければ何も始まらない。ビジョンを示すだけでなく、なぜその方向なのか根拠を示す力が必要。

》経営人材育成講座「さいたま経営らぼ」

経営者クロストーク

日時 1月21日(水)、22日(木)、2月2日(月)、3日(火)、4日(水)

場所 大宮ソニックシティ
(株)デサン大宮本社 ほか

参加者 計10名

講師 ①株式会社デリモ 代表取締役社長 栗田 慶太郎 氏
②株式会社デサン 代表取締役社長 藤池 一誠 氏
③吉野電化工業株式会社 代表取締役社長 吉野 正洋 氏

9月から約半年間にわたって開催している「さいたま経営らぼ」において、ワークショップで学んだ経営戦略策定とそれに連動する財務会計・人事制度の内容を踏まえ、弊社会員企業の経営者に対して実際に戦略を提案して、意見交換を行う「経営者クロストーク」を実施した。

冒頭では各経営者から経営理念・戦略に関する講義

を受け、経営者の熱量や思考、人となりを感じた。また、回によっては企業内の様子も視察させていただき、実際の現場と併せて経営のリアルを学ぶことができた。

参加者からの発表では、異業種だからこそできる気兼ねない質問や深掘りがあり、各回が充実したクロストークとなった。



》第11回トップセミナー

赤城乳業のブランド戦略

日時 2月25日(水) **場所** 大宮ソニックシティ 401

参加者 計46名

講師 赤城ホールディングス株式会社 専務取締役
井上 大悟 氏

講演する
井上 大悟 氏



赤城乳業は埼玉県深谷市の小さな食堂に始まり、「あそびましょ。」という遊び心を大切にする企業メッセージを掲げる。売上250億円だった2004年から本格的なブランド戦略を展開し、2025年時点で売上602億円、業界4位～5位となるまでに成長を遂げている。

代表的な商品である「ガリガリ君」は「子供が遊びながら片手で食べられるかき氷」を作れないかという発想から開発がスタートした。歴史的な猛暑を記録した2004年にはCM戦略もうまくはまり、過去最大の販売実績を上げた。しかし、当時の調査では「商品は好きだがキャラクターのデザインは嫌い」という意外な結果に。これを社内では伸びしろと捉え、売り場(店頭)を起点とした企画を次々に打ち出す。

その一つが「ガリガリ君レインボー売り場」。ガリガリ君の特徴である多彩なフレーバーを売り場に並べ

て、アイス売り場の視認性、話題性を高めた。そのほかにもゲームや漫画とのコラボや「ガリガリ部」と名付けたファンとのコミュニティづくりなど、キャラクターを最大限生かして、生活のあらゆる場面でガリガリ君を登場させるマーケティング戦略を展開。さらに話題をさらったのが、2012年発売の「コーンポタージュ味」。当時は自分も含め社内でも反対意見が多かったが、ヤフーニュースのトップに何度も掲載されるほどの衝撃を与えた。

順調な成長の一方で、2014年には初めての売り上げダウンも経験。少子高齢化や異常気象(暑すぎて外出を控える)といった新たな課題に対し、地域貢献や次世代ファン層の開拓を通じて、次の成長フェーズへと向かっている。

セミナー開催結果

》経営人材育成講座「さいたま経営らぼ」

最終回「提案と対話」

日時 2月17日(火) 場所 大宮ソニックシティ

参加者 計17名 講師 埼玉大学 経済経営系大学院 教授
宇田川 元一氏



講演する宇田川 元一氏

約半年間、計11回にわたる「さいたま経営らぼ」の最終回として、本企画アドバイザーでもある埼玉大学経済経営系大学院の宇田川元一教授より講演をいただいた後、参加者から上司に対して今まで「らぼ」において学んできたこと、そして作り上げた経営戦略の提案を行った。

【宇田川教授 講演内容】

経営には、A面とB面が存在する。A面とは、KPIや売り上げ・利益など書類に書ける世界、合理性で説明できる世界の事を指す。B面とは、なぜこの会社が存在するのか、何のための事業か、顧客にどうあってほしいのか、社会のどんな課題を解くのかなど、言葉にはしづらい企業の本質的な価値を指す。

A面も大切だが、こちらに偏りすぎると、B面が廃れてくるというのは昨今の企業によく見られる現象である。

例えば、外食チェーンはロボットやタッチパネルをつかって省力化を図るのが一般的になっているが、それを利益率向上のためだけでなく、顧客目線でUIを設計できているかどうかが店舗によって異なる。ある店舗ではタッチパネルがとても複雑で、まず売りたいメニューがドンと出てくる。店員も挨拶なく、ロボットのアシストみたいな立ち位置になっている。一方別の店舗では、どんなに混んでいても必ずサラダから出てくる。前菜からメインへ順番に楽しんでもらいたいという気配りが感じられる。また、帰るときには必ずフロアに立って、ありがとうございましたと言ってくれる。

表向きは同じ外食チェーンだが、本当にやっていることは何なのかと考える。会社として、事業を通じて何を本当に提供したいのか、働いている人にどういう存在であってほしいのか、ここに企業のB面というものが存在する。

A面だけに特化していくと、一見とても良い経営をしているように見えてしまい、そういう経営者はメ

ディアからも評価されやすい。しかし、それは事業再生をしているだけで、経営をしているわけではないと言わざるを得ない。日産でゴーン氏が行った改革は短期的には成功だが、結局「何の車をつくりたいか」が失われてしまった。

数字を追いかけることも大事だが、数字を達成して何をしようとしているのかということがないと、提供者がその企業である必要性が薄れてしまう。

企業規模が大きくなるにつれて分業化・ルーティン化が進み、結果的に問題意識が忘れ去られて数字だけが目標として残っているということが起きる。組織が断片化し、狭い認知の枠組みの中で表層的な問題解決に終始してしまう。

対策として、一つはトップがきちんとした全社戦略を考えられるようになること。そして、その戦略に対してのコンセンサスを全社で形成すること。戦略がどう大事か、一方的に説明しても伝わらない。働いている社員が抱える問題意識の中にその戦略を置けるかどうか大事。

戦略とは、やるべきことを深く理解した結果、後から見えてくるものである。戦略の前に必要なのは、自社の固有の問いを持つこと。ジャパネットたかたを創業した高田明氏はインタビューで「カメラを紹介する際に、画素数やズーム機能の話ではなく、写真を撮ることの価値や素晴らしさをまず伝える」と語っている。顧客が生きている世界に入り込み、彼らがどうやったらより良い生活ができるかを念頭に置いている。つまり、顧客の幸せを考え、不満を取り除いてあげることが結果的に合理的な戦略になっているのである。

経営する上では、どうしても勝ち負けを追ってしまうが、勝ちにも「良い勝ち」と「悪い勝ち」がある。数字の達成だけを目的にした結果生まれる「悪い勝ち」ではなく、成果より先に他者への貢献がある「良い負け」ができることが大切で、それを許容できる土壌づくりこそが企業の存在意義(=B面)になる。

》第3回 SDGs 委員会

発達障害者雇用に向けた企業支援セミナー

日時 12月19日(金) **参加者** 41名 **場所** 大宮ソニックシティ

共催 埼玉労働局、埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」、埼玉県

行政説明 障害者法定雇用率と雇用助成金制度
埼玉労働局 職業安定部 職業対策課 課長補佐 高德 洋輔 氏

講演 「発達障害者の特性と理解」
埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」 相談員 高橋 広明 氏



セミナーの様子

第14回目となる本セミナーは発達障害者の支援者に対して、支援をする上で知っておきたい基本的知識の説明と、雇用する企業及び就職者の生の声を報告した。事例発表は以下の通り。

①一般社団法人あしなが育成会と障害者就業・生活支援センター CSA の取組

同会 事務局 次長兼総務管理部総務課 課長 今村 嘉宏 氏と当事者の島田寛樹氏、同センター 就業支援担当者 本間宏平 氏より、当事者の部署配置に対する配慮や定着支援エピソードについての発表。特に、配置部署において当事者への注意・指摘ができることや就

業環境の整備について、受入れ部署の人員体制や協力が不可欠である点を詳しく説明した。

②株式会社シーエックスカーゴ・ジョブセンター熊谷の取組

同社 人事部人材開発課 企業在籍型職場適応援助者 當郷綾香 氏と 障害者職業生活相談員 今里弥生 氏、当事者の宮内梓里 氏、同センターのセンター長 山田那奈 氏より、同社の障害者雇用の考え方、ジョブコーチや生活相談員へのフォローアップ研修と当事者向けの研修、当事者へのこれまでの相談支援内容や入社前と入社後の変化について発表を行った。

》第4回 SDGs 委員会

特別支援教育の現場視察と意見交換会

～県立岩槻はるかぜ特別支援学校～

日時 1月27日(火) **参加者** 16名 **場所** 県立岩槻はるかぜ特別支援学校

県立岩槻はるかぜ特別支援学校は、開校3年目となる、埼玉県で最も新しい知的障害教育部門の特別支援学校である。

同校は視覚支援を重視した学校づくりを通じ、言葉や文字による指示理解が困難な児童生徒であっても、見ればすぐに「わかる」環境づくりに注力している。校舎内の廊下や教室にはピクトグラムやサインを掲示し、どのような教室であるかが視覚的に判別できるよう工夫されている。

学校概要説明では、日々の学校生活、作業実習や現場実習、職業教育（木工、陶芸、手工芸、環境整備）等について動画を用いて説明が行われ、施設や授業の見学では児童生徒の様子や、施設の特徴について説明があった。進路概要説明では、福祉サービスの利用や企業就労について説明があった。その後、高等部3年生の生徒による現場実習の体験発表が行われた。この日の為に発表

内容をまとめ、元気のよい発表に加え、参加者からの質問に積極的に答えたりしている様子が印象的であった。同校の進路指導主事との質疑応答では、「支援機関とのかかわり方」「進路活動における保護者の考え方」などの質問があった。

参加者からは「学校全体で生徒さん達と真摯に向き合っているのが感じられた」「3年生との交流会が良かった」「進路についての説明をもう少し聞きたかった」などの感想があり、盛況に終わった。



全体会と施設見学の様子



セミナー開催結果

》第5回SDGs委員会

障がい者に対する配慮を意識しつつ 「できること」と「苦手なこと」を理解する

～アイル・コーポレーション株式会社現場視察～

日時 2月20日(金) **場所** 複合公益施設サウスピア (職場視察)
埼玉りそな銀行武蔵浦和支店2F セミナールーム (全体会)

参加者 13名 **講師** アイル・コーポレーション(株)
人事部 立石 勉氏 鈴木 絵弓氏 斎藤 克志氏 富樫 知尋氏
サウスピア清掃責任者 阿部 健二郎氏、同職員 長島 咲也氏



職場視察の様子

障がい者雇用を積極的に推進している企業現場の視察を通して、障がい者雇用における課題解決を目的とした職場視察会を武蔵浦和駅前にある複合公益施設サウスピアにて開催した。視察先となったアイル・コーポレーション(株)は、同施設の管理運営をオーエンス・アイルグループとして2013年1月より担当している。同社は、埼玉県障害者雇用優良事業所等表彰において、令和6年度に理事長努力賞、令和7年度には事業に従事する上田睦明氏が優秀勤労障がい者として表彰されている。

複合公益施設サウスピアの現場施設では、施設の特徴や清掃上の注意点等について同施設の清掃責任者の阿部氏の説明を受けながら見学した。

企業概要説明等では、同社人事部課長の鈴木氏より会社概要や障がい者雇用「誰もが活躍できる職場」へ

の想い、官民連携事業を通じた地域活性化とまちづくりの仕組みについての説明があり、続いて同社人事部参事の斎藤氏より「現場で実際に回すための工夫～会社としてできていることと、正直いま困っていること～」と題した、特別支援学校の職業教育を理解することの重要性、支援学校からの採用実例、今後との取り組みと課題についてのご説明があった。

質疑応答では、清掃職員の長島氏より事前質問への回答をはじめ、採用後の人事評価についてや入社後の保護者との関係性や支援体制の在り方について質問があり、障がい者雇用についての理解を深めた。

参加者からは「支援学校とどのようにつながるか、支援学校からの雇用をどのように進めていくかについては当社の課題でもあったのでとても勉強になりました」などの感想があった。

》第4回産業教育委員会

高校生と企業社員との交流会

～働くを知り、自分のキャリアを考える～

日時 2月19日(木) **場所** 県立草加東高等学校

参加企業 24社 **共催** 埼玉県教育委員会、埼玉経済同友会、三郷市商工会、八潮市商工会

参加者 1学年318名



挨拶する
佐藤 智明 校長



挨拶する
富田 訓吉 指導主事

埼玉県教育委員会からの要請を受け、経営者協会と埼玉経済同友会、三郷市商工会、八潮市商工会で高校生と企業社員との交流会を共同開催した。本事業は高校生が企業の社員との交流を通して、実際の働き方や仕事内容、企業が抱える課題について理解を深めることで、自己と社会との関わりや、将来の在り方生き方、進路選択について考える機会とすることが目的である。当日は24社の企業にご協力いただき、1学年318名の生徒に企業が抱える課題などを伝え、交流を図った。

参加企業からは、「オリンピック期間中なので、夢は必ず叶う。だけど、何もしなければただの夢で終わるといふこと。叶える為には努力が必要だと伝えました。」「高校一年の段階で働くことへの意識を持つというのは、とても重要なことと感じました。」「私たちの話が、今後どんな社会人、学生になるのかの一部の情報提供となったのであれば幸いです。」などの感想が

あった。

生徒からも「教科書やインターネットでは得られない『生の現場の声』に刺激を受けました。」「自分が今後どうなりたいのか将来について考えるきっかけになった。いろんな職業の仕事内容など詳しく知ることができたので活かしていきたいです。」「将来就職をするときに今回学んだことを思い出したいと思いました。」などの声があり、交流会を通して仕事への理解が深まり、進路意識や働くことへの意識の向上がみられるなど、双方にとって充実した交流会となった。



交流会の様子

第2回会員企業等異業種交流会

日時 1月26日(月) **場所** 大宮ソニックシティ 市民ホール

参加者 37名 **講師** 株式会社帝国データバンク 東京支社
情報統括部 情報取材課 下川 純氏



講演する下川 純氏

第1部では「企業の継続的成長の施策」と題して、株式会社帝国データバンクの下川純氏より、近年の経済動向と中小企業政策・データで見る年商100億企業・成長戦略と成長企業のタイムライン・M&Aの事例を通じた施策のヒントとトラブル事例等、多角的な視点から「持続可能な経営」の要諦についての講演を行った。

1世紀以上にわたり帝国データバンクが守り続けている「現地現認」のポリシー。一人ひとりの調査員による「現地で目で見て、耳で聞いて、肌で感じなければ得られない確かな情報」を地道に確認する徹底した企業信用調査があるからこそ、貴社のデータは単なる情報の集積にとどまらない。不透明な経済環境において、経営者が進むべき道を照らす「羅針盤」としての絶対的な価値を確立している。今回の基調講演は、データが示す客観的な事実と具体的な成功・失敗の事例に

耳を傾け、自社の将来像を描くための貴重なヒントを得る機会となった。

第2部は参加企業による自社PRを実施。今回の自社PR企業は、自社のIT体制や業務プロセスの整備、現場に即した形でのデジタル化支援、生産性の向上や組織の成長支援等について企業PRを行った。

第3部では交流会が行われた。参加者同士の積極的な名刺交換や情報交換が随所で見られ、会場は終始活気に包まれた。



》令和7年度 4地区協議会共催「現地視察会」

(株)ダイヤモンドマーク 埼玉県産業技術総合センター視察

日時 2月13日(金) **場所** 川口市

参加者 10名

(株)ダイヤモンドマーク代表取締役社長
間野 旭氏による説明の様子



令和7年度4地区協議会共催による「現地視察会」が開催され、川口市内にある(株)ダイヤモンドマークと埼玉県産業技術総合センター(SAITEC)を視察した。

(株)ダイヤモンドマークは主にユニフォームや衣類へのマーキングを行っている企業で、プロスポーツから学校の部活動、さらに企業のユニフォームなどあらゆる素材・マーク加工をデザインから加工まで一括で対応している。多品種少量生産が強みで、要望に応じて最も見栄えの良い文字サイズ、レイアウト、デザインを提案し、フルオーダーメイドで加工を行っている。

マーキング作業を行っている現場では、デザインから刺繍、プリント、シール加工など各工程で従業員一人ひとりが非常に細かい作業を行っていた。参加者が質問すると丁寧に答えて下さり、その受け答えに従業

員のマーキングに対する思いとプライドを感じられた。

埼玉県産業技術総合センター(SAITEC)は、県内産業の技術力強化、振興を図るため、技術開発支援や事業化支援を行う公設試験研究機関である。視察では、3Dプリンター、赤外分光光度計、リバレーションチャンバー(電磁波試験に用いる設備)などを見学し、埼玉県が行っている技術支援の最前線を学ぶ回となった。



埼玉県産業技術総合センター視察の様子

セミナー開催結果

》令和7年度 埼玉大学特別公開講座

日時 2月13日(金) **講師** ①埼玉大学大学院 人文社会科学研究所 教授 加藤 有希子 氏
②埼玉大学大学院 人文社会科学研究所 教授 ビュールク トーヴェ ヨハンナ 氏

参加者 計 16名

場所 大宮ソニックシティ 904 会議室



第1部
加藤 有希子 氏



第2部
ビュールク トーヴェ ヨハンナ 氏

本会と埼玉大学が共催の特別公開講座は、埼玉大学の教員2名が各研究分野の発表を行った。

■第1部

「なぜ世界に経済に人生に

『芸術と人文学』が必要なのか?」 加藤有希子 氏
教育や政治の現場で「無駄」と冷遇される芸術・人文学だが、古くは浮世絵から現代美術に至るまで、日本文化の価値を底上げしてきたのは「人文知」の力である。

現代のビジネスには、アートが持つ「自己探求」や「社会への問題提起」といった姿勢が不可欠である。SDGsに代表される大きな使命を背負う現代において、単なる金儲けではない「歴史に残る価値」の創造が求められているからである。科学・人文学・アート・ビジネスは、対立ではなく互いに歩み寄るべきである。

科学が仕組みを、人文学が意味を、アートが感性を、そして、価値を決定づけて、社会に根づかせるのがビジネスの役割である。この四者の連携こそが、今の厳しい時代を切り拓く鍵である。

■第2部

「江戸の大名屋敷における
素人芝居にみる日本の〈やってみる〉文化」

ビュールク トーヴェ ヨハンナ 氏

江戸時代、歌舞伎は劇場で鑑賞する「公的空間」だけでなく、大名屋敷という「私的空間」で自ら演じる「〈やってみる〉文化」として深く浸透していた。

当時の素人芝居は「まずプロの所作を模倣し、その後、独自の筋書きで再構成する」という、現代の二次創作にも通じる高い創作性を持っていた。お狂言師の存在や、分担・模倣が容易な「変化踊り」の流行は、この文化を加速させることにもつながった。

この精神は、現代の「歌ってみた」「踊ってみた」やコスプレへと受け継がれている。模倣やアレンジを通じて原作への親しみを深め、コミュニティを形成する構造は、日本文化が持つ「受け取ったものが次の表現の糧になる」ことを象徴している。模倣(コピー)は単なるコピーに留まらず、文化を全ての階層に生存させるための重要な力になる。

■参加者の感想

- ・今までにない切り口で面白かった。
- ・美学、感性がとても重要であることが再確認できとても有意義な時間でした。

》2025年度 ものづくり大学特別公開講座

埼玉県産木材イノベーションフォーラム

～建築デザインとサプライチェーンが拓く地域産業の新戦略～

日時 2月26日(木) **参加者** 30名 **場所** 渋沢MIX

講師 武蔵野美術大学教授 若杉 浩一 氏
株式会社古川ちいきの総合研究所 代表 古川 大輔 氏
株式会社ウッドイーコイケ 取締役副社長 小池 啓友 氏
さいたま家づくりネットワーク 事務局長 星野 敏之 氏
ものづくり大学地域木材・森林共生研究センター長 戸田 都生男 氏



パネルディスカッションの様子

本会会員である学校法人ものづくり大学と共催の2025年度特別公開講座は昨年7月に開場した渋沢MIXを会場とし、装いも新たに開催した。

【第1部 基調講演】 武蔵野美術大学教授若杉浩一氏が「地域木材が拓く建築とデザインの未来」と題し、一般的には無駄、無意味とも言えるデザイン作業はそれに地域住民が関わることによって、共同体が組成され、世の中を美しくする効果がある。また森林資源はそれだけでは経済合理性は無くとも、人間には必要なものであり、共同体のハブとなりうるとの講演を行った。

【第2部 基調講演】 株式会社古川ちいきの総合研究所代表古川大輔氏が「森林資源を価値化するサプライチェーン戦略」と題し、地域産木材を使う意義は、それを好きであることと、ある種の憤りから発生する情熱を生み出すことである。森林資源の価値化と可視化を実現させることにより販売先のマーケット構成者に対して経済的価値を認識させることができ、ビジネスに繋げることができるとの講演を行った。

【第3部 パネルディスカッション】 第1部、第2部の講

演者に加え、(株)ウッドイーコイケ取締役副社長小池啓友氏、さいたま家づくりネットワーク事務局長星野敏之氏も加わり、ものづくり大学教授の戸田都生男氏をコーディネーターとして「埼玉県産木材をもっと活かすために」とのテーマでパネルディスカッションを行った。①埼玉県産木材の魅力と課題、②その価値の再編集、③埼玉県における具体的な実装・共創モデルについて意見を交わし、パネリストからは埼玉県は人口などを考えると木材消費のマーケットは大きく、可能性を秘めているため、それを活かす共同体作りや建築物に県産木材を使う施策が必要との具体策が示された。



<左から>開会挨拶ものづくり大学 学長 國分 泰雄 氏、開会挨拶本会会長 橋元 健 氏、講師の若杉 浩一 氏、講師の古川 大輔 氏、閉会挨拶ものづくり大学 理事長 土屋 喜久 氏

埼玉県からの お知らせ



コバトン

【第22回アビリンピック埼玉大会2026】参加選手募集

障害のある方々の職業能力向上と、障害者雇用の促進を図ることを目的とした技能競技大会「アビリンピック」の参加選手を募集します。

令和8年5月13日(水)までにお申込みください。

参加は無料です。

詳細はこちらから→



〇問い合わせ先

(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構
埼玉支部
(048-813-1112)

2級・3級の受検手数料減免あり！ 令和8年度前期技能検定実施 のお知らせ

技能検定は様々な職種で働く人の技能を評価する国家検定制度で、県では建築大工や機械検査など約40職種の検定を実施します。

〇受検申請方法

令和8年4月6日(月)～17日(金)に受検申請書を県職業能力開発協会へ提出

〇受検手数料 (各等級・職種共通)

学科試験のみ：3,100円

実技試験のみ：18,200円

実技・学科両方：21,300円

※2級・3級受検者は、年齢等により上記金額から減額される場合があります。詳細は、同協会ホームページを御確認ください。

〇試験日程

令和8年6月～令和8年9月

〇問い合わせ先

県職業能力開発協会
(048-829-2802)



勤労者向け融資制度の御案内

子供の教育費や介護、不妊治療、資格取得のための費用など、働く人にとって必要な資金の融資制度を設けています。

融資に際しては、審査があります。

詳細はこちらから→



〇問い合わせ先

中央労働金庫の県内各店舗
県金融課
(4月から経営・金融支援課になります)
(048-830-3806)

埼玉県中小企業制度融資 の御案内

事業者の皆様の資金繰りを支援するための融資制度を設けています。県が金融機関に利子補給を行うことにより、県の定める低い利率で金融機関から融資を受けることができます。

詳細はこちらから→



〇問い合わせ先

事業所がある地区の
商工会議所又は商工会
県制度融資の取扱金融機関
県金融課
(4月から経営・金融支援課になります)
(048-830-3801)

講師派遣型技能講習のお知らせ

中小企業等を対象に、社員のスキルアップのための講習を実施します。講習内容、日数等は要望に応じて設定でき、講師を貴社に派遣します。

新入社員教育や資格取得対策などにぜひ御活用ください。

詳細はこちらから→



〇問い合わせ先

県産業人材育成課
(048-830-4598)

受託取引に関するお悩みを お持ちの県内企業の皆様へ

身近な相談支援機関で、適正な取引に向けた相談や違反疑い行為の相談・通報が可能になりました。

埼玉県では、中小受託取引適正化法(取適法)の実効性を高め、ワンチームで適正な取引を推進していくための仕組みとして「埼玉県適正取引情報共有ネットワーク」を令和8年2月に立ち上げました。

これにより、企業の皆様にとって身近な相談支援機関である商工会や商工会議所、一部の金融機関、経済団体などを通じて、受託取引に関する相談が可能となりました。

また、希望すれば、ネットワーク

を介して取適法の違反の疑いがある行為について国や取引先へごみ寺への通報もできます。

相談窓口一覧等、詳細は県ホームページで御確認ください。



人材戦略アドバイザーのご案内 ～アドバイザーを活用して 人事課題を解決しませんか～

県内企業の人材確保を支援するため、人材戦略アドバイザーによる個別相談を行っています。企業の経営課題や人事労務に詳しいアドバイザーが、採用戦略や育成・定着など人材確保に関する相談に対応し、課題解決に向けてアドバイスします。是非ご活用ください。

費用：無料

〇問合せ・ご予約

県企業人材サポートデスク
(048-826-5592)



埼玉県障害者雇用優良事業所・ 認証制度の御案内

県内で障害者雇用に積極的に取り組む事業所を認証する制度を設けています。認証マークを会社案内や名刺等に使用し、PRできます。また、取組が特に顕著な事業所に対しては表彰を行っています。

〇問い合わせ先

県就業支援課
(048-830-4536)



経営サポーターが経営課題解決 をお手伝いします！

中小企業診断士資格を持つ経営サポーターを県内8か所に設置します。経営サポーターは、経営課題の解決につながる支援策の周知やマッチングなど、埼玉県内全ての地域の事業者の皆様の賃上げ環境整備に向けた支援を伴走型で行います(無料)。お気軽にお問い合わせください。

〇開始時期

令和8年3月下旬予定

詳細はこちらから→

〇問い合わせ先

県産業労働政策課
(048-830-3721)





国際共同研究から地域へ：防災DXの社会実装と人材育成

国際本部 越智 貴子 准教授

私は、気候変動により激化する豪雨災害に対し、リアルタイムの予測情報を住民の避難行動や行政の判断につなげる「防災DX」の研究に取り組んでいます。現在、私が主要研究協力者として参画するJST×JICAによる国際共同研究プログラム「SATREPS」の一環として、ベトナム中部フエ省を対象に、地すべり・土石流の早期警戒システムのデジタル実装を進めています。本研究では、災害リスクの高い地域で社会的に脆弱な住民を優先的に避難へ導く段階的案内機能を開発し、現地行政機関や大学と連携して実証を行っています。さらに、ベトナムに本社を置くIT企業FPTグループ（FPT ジャパン）と協働し、防災アプリを活用した警戒情報提供の仕組みを試作するとともに、行政の意思決定支援に資する情報運用のあり方を検討しています。こうした取組は、フエ省のスマートシティ構想における防災分野のデジタル化にも貢献しています。

また、国際共同研究で得られた知見をベトナム行政官や研究者・技術者向け研修として日本において展開し、地域貢献につなげることも重視しています。その一環として、埼玉県行田市の忍城を

題材に地形・地質と水の流れから歴史的な「水攻め」を科学的に読み解く地域防災プログラムの実施を予定しています。

さらに、埼玉大学の理工系学生を対象にタイ・カセサート大学や豪州RMIT大学と連携したブレンド型（オンライン+対面）の国際PBL型共修を実施しています。都市型洪水や暑熱対策といった課題に対して、埼玉県の中小企業技術を活用した解決策提案を行うことで、学生の実践力育成と地域産業への理解促進につなげています。加えて、私のもう一つの研究テーマとして、高学歴外国人材の地域定着に関する研究にも取り組んでいます。留学生と地域企業の接点づくりや就職支援の仕組みを検討し、防災・気候変動対応と人材育成を結びつけながら、地域の防災力強化と持続的な人材確保に貢献したいと思っています。



ベトナム・フエ省スマートシティアプリ「Hue-S」の防災機能強化に向けた国際共同研究が始動

▶ 産業への展開

- ・防災DXによる情報サービス高度化と施策効果の検証（海外展開も視野）
- ・留学生の技能と地域産業のマッチングによる人材定着・リクルーティング支援

学歴・略歴 越智 貴子（おち たかこ）上智大学卒、ロンドン大学大学院修士（公共政策学）取得。UCL 公共政策学部客員研究員等を経て、2025年4月より現職。専門は国際行政学、移民政策、国際高等教育、地方創生。



ロボットを創るという学び

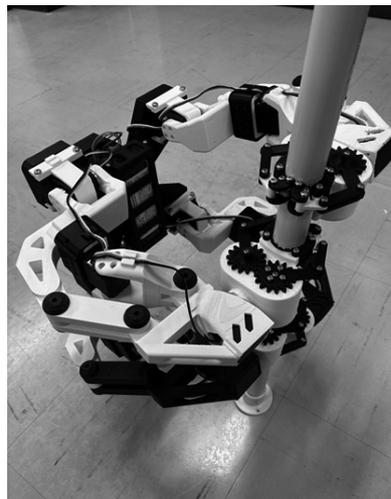
情報メカトロニクス学科 細合 晋太郎 講師

近年、ロボット技術は急速に高度化し、工場や医療、農業、サービス分野など多様な現場で活躍しています。しかし一台のロボットが動くまでには、機械設計、電子回路、制御工学、プログラミング、さらにはAIといった複数分野の技術が必要となります。どれか一つが欠けても思い通りには動きませんし、分野同士も密接に関わっており、機械設計に応じた制御や回路に合わせたソフトウェアなどが必要となります。

このように特定分野を深く究めた専門家は不可欠ですが、異なる分野を横断し、全体像を理解しながら調整できる人材はロボットの開発で重要となります。そのような力を育むために重要なのが、実際に自らロボットを作ってみる経験です。講義で知識を学ぶだけでなく、部品を選び、配線し、制御を考え、試行錯誤を重ねる中で、分野同士のつながりが体感として理解されます。何より「こんなロボットを作りたい」という主体的な思いが、学びを深める原動力になります。

研究室では機械設計や電気、プログラミングなどロボットに必要な基礎知識を学んだあと、学生一人ひとりにどのようなロボットを作りたいか相談しながら進めています。同じ視点に立ち

ながら技術的課題を抽出し、マイルストーンを置き一つずつ試しながら段階的に進むことを通じて、工学的なものづくりの楽しさと難しさを身につけます。またロボットは課題を解決しなくてはなりません。解く課題に合わせて合理的な設計や実装ができるように進めています。卒業後にもものづくり大学を作りましたと自信をもって話せる学生を多く育てたいと思っています。



学生が作成した柱に登攀できるロボット

細合 晋太郎（ほそあい しんたろう）講師 博士（情報科学）、北陸先端科学技術大学院大学博士課程修了、九州大学 大学院システム情報科学研究院 学術研究員、株式会社チェンジビジョン、東京大学 大学院情報理工学系研究科 特任研究員などを経て、2024年4月より現職。情報処理学会所属。専門分野は組込みシステム、ロボットシステム、ソフトウェア工学。

相続のお手続きでお悩みの方は武蔵野銀行へ!

そんなに資産も多くないから遺言なんて必要ない?

相続の手続きってどんなものがあるんだろ?

相続に関する気になる疑問を動画でチェック!

※遺言信託・遺産整理業務には手数料がかかります。詳しくは最寄りの店舗、各サービスパンフレットをご参照ください。

お問い合わせ先 武蔵野銀行個人コンサルティング部 TEL 048-641-6111

More For You
もっと、前・暮らし・笑顔のために

武蔵野銀行

経営者の皆さまの“こまりごと”の解決を私たちが全力でサポートします!

- ✔ ビジネス創出の機会をご提供します。
- ✔ 経営のフォローアップに努めます。
- ✔ お客様のニーズを共に考えます。
- ✔ 各種ソリューションをご提供します。

お客様の“こまりごと”を解決するお手伝い!

ビジネスプラザさいたま

埼玉りそな銀行 Business Plaza
RESONA ビジネスプラザさいたま

「企業」と「人材」を結ぶエキスパート!! ジョブ産雇

1987年(昭和62年)「失業なき労働移動」を支援する公的機関として設立。以来30余年に亘り、25万人におよぶ再就職・出向支援など労働移動をサポート!!

人材の確保 従業員の再就職
どちらも無料でサポート

全国約500人のコンサルタントがサポート
雇用を守る出向支援プログラム「在籍型出向制度」

66歳以降も働き続けたい方
66歳以降も働ける職場
キャリア人材バンク

ハローワークと連携、取りになる公的機関です。
応援します、頑張るあなたの新職場!!

きっとみつける いい人・いい仕事

公益財団法人 産業雇用安定センター ●電話番号 048-642-1121 ●FAX番号 048-646-4915

埼玉事務所 無料職業紹介事業許可番号 13-ム-030002

皆様の職場を支える新たなパワーとして シルバー人材センターを活用してみませんか!

求人・人手不足にお悩みの事業主様へ

3つのメリット

- 知識や経験**
豊富な知識や経験、技能を持つ会員が、多様な仕事に対応します。
- 身近で便利**
県内59箇所に設置。全県をカバーしています。早朝や夕方、土日、短時間の仕事などにも対応します。
- 安心で丁寧**
公益的、公共的な団体なので安心です。丁寧、実直に仕事に取り組みます。

主な業務内容

- 事務分野**
 - 一般事務 ●経理事務
 - 毛筆筆耕、宛名書き
- 技能を活かす分野**
 - 植木剪定
 - 和洋裁
- 屋内外の一般作業**
 - 清掃
 - 梱包、包装、検品、仕分け
 - 除草
- サービス分野**
 - 保育、介護補助
 - 品出し、接客
 - 営業

●シルバー人材センターとは
「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」に基づき設立された公益法人です。地方公共団体をはじめ、企業や家庭などから高齢者にふさわしい仕事を引き受け、シルバー人材センターの会員に提供しています。

埼玉県シルバー連合 検索

公益財団法人 いきいき埼玉 〒362-0812 伊奈町内宿台6-26 (埼玉県シルバー人材センター連合) 埼玉県県民活動総合センター内

お問い合わせは所在市町村のシルバー人材センターへ TEL 048-728-7841 FAX 048-728-2130



ワンポイント労働法

更衣時間の労働時間性の要件は

弁護士 安西 愈

「更衣時間は労働時間か」という問題が制服を着用して業務を行う企業でよく問題となる。この点については、労働時間とは最高裁判決（平成12年3月9日第1小法廷判決、三菱重工長崎造船所事件）の「労働基準法32条の労働時間とは、労働者の指揮命令下に置かれている時間をいい、右労働時間に該当するか否かは、労働者の行為が使用者の指揮命令下に置かれたものと評価することができるか否かにより客観的に定まるものであって、労働契約、就業規則、労働協約等の定めいかんにより決定されるものではない。」との判決によって定められている。

更衣時間についても、労働者は「実作業に当たり、作業服及び保護具等の装着を義務付けられ、また、右装着を事業所内の所定の更衣所等において行うものとされていたというのであるから、右装着及び更衣所等から準備体操場までの移動は、会社の指揮命令下に置かれたものと評価することができる。」として労働時間と判示した。

その後作成された労働省の「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン（平成29年1月20日基発0120第3号）」においても「使用者の指示により、就業を命じられた業務に必要な準備行為（着用を義務付けられた所定の服装への着替え等）や業務終了後の業務に関連した後始末（清掃等）を事業場内において行った時間」を労働時間としている。

そこで作業服等への更衣時間が労働時間となるためには、

①着用を義務付けられたこと②事業場内の所定の更衣所等において行うこととされていること、の2要件を充足する場合である。

判例でも、「会社は従業員に対し、会社の指定する制服を着用して業務を行うよう指示していたものの、料金ステーションの更衣室において制服に着替えることを義務付けていたとは認められず、従業員が所定始業時間前の更衣時間において会社の指揮命令下に置かれていたものと評価することはできないから、所定始業時間前の更衣時間が労働時間に当たるとはいえない。」（令和7年10月30日大阪地裁判決 西日本高速道路サービス関西事件）と否定されている。

一方「原告従業員らは、被告から、制服を着用するよう義務付けられ、かつ、その更衣を事業所である各郵便局内の更衣室において行うものと義務付けられていたのであるから、制服の更衣に係る行為は、被告の指揮命令下に置かれたものと評価することができる。したがって、更衣に要する時間は、労働時間に該当すると認めるのが相当である。」（平5.12.22神戸地裁判決 日本郵便事件）とされている。

なお、「制服を着用して通勤している者がいることが認められる」との点につき、「被告の義務付けに反して制服を着用して通勤しているとみるのが相当であり、制服を着用しての通勤を許容していたと認めることはできない。」（同上判決）とされている。

告知版

》令和8年度 人事・賃金講座

日時 4月20日(月) 13:30～16:30
会場 大宮ソニックシティビル 906
講師 経団連事業サービス/人事賃金センター
センター長 平田 武氏

》令和8年度埼玉県産業労働部主要施策説明会

日時 4月22日(水) 14:00～16:00
会場 大宮ソニックシティビル 401

》令和8年度定時総会

日時 令和8年5月13日(水) 13:30～18:00
会場 バレスホテル大宮 ローズルーム
講師 ヨーヨーパフォーマー BLACK 氏
「日本人初のTED出演に至る挑戦と、世界で学んだプレゼンテーション術（仮題）」（創立80周年記念特別講演）

》1on1 ミーティングセミナー《3DAYS》

日時 DAY1:5月22日(金) 基礎行動編
DAY2:6月18日(木) 実践行動編
DAY3:7月23日(木) 応用行動編
会場 大宮ソニックシティビル DAY1:401、DAY2・3:404
講師 ビジネスコーチ(株)
パートナーエグゼクティブコーチ 加地 照子 氏

》第3回 橋元会長杯争奪 会員親睦ゴルフ大会

日時 6月19日(金)
会場 武蔵カントリークラブ 笹井コース

会員の動き

新入会員のご案内

(一社) 埼玉県中小企業
診断協会
会長 高澤 彰
さいたま市浦和区高砂
4-3-21 三協ビル5階
TEL 048-762-3350
(資) 0万円
(従) 4名
中小企業診断士を会員
とし、会員の支援を主
とする

KOMINE 工業(株)
代表取締役
門屋 雅佑美
久喜市栗橋中央2-4-30
TEL 0480-52-1345
(資) 2,000万円
(従) 30名
金属加工<ロッドエ
ンド>・鋳造関連副資
材<中子・ケレン>

(医社) 鴻愛会 with Life
クリニック大宮駅前
理事長 神成 文裕
さいたま市大宮区桜木町
1丁目133-2
メインKビル2・3・4階
TEL 048-783-2637
(資) 4億6,000万円
(従) 27名
医療・介護

代表者変更

(株) ベネック
代表取締役社長
山田 裕之
(旧 代表取締役社長
山田 修)

(株) JTB 埼玉支店
支店長 児玉 浩孝
(旧 支店長 黒崎 徹)

住所変更 (新住所)

三位電気(株)
川口市大字小谷場
68番地

お知らせ

埼玉経協ニュースは次号4・5月号からデジタルブック形式に移行し、本会ホームページ上に掲載します。パソコンやスマートフォンなどからページをめくるように閲覧でき、記事はカラー化、企業広告にリンクを設定するなど、機能性も向上致します。ぜひともご覧ください。